

香川でのサテライトオフィス開設を支援します

新しい生活様式で働き方を推進し、地方移住への関心の高まりを踏まえ、県外から県内への企業および人の移転を促進するため、香川でのサテライトオフィス開設を支援します。

●サテライトオフィス拠点整備事業

テレワークに取り組む県外企業をターゲットにサテライトオフィスの拠点整備を行う民間事業者（個人事業者は除く）に対して、改修や整備などに要する経費を補助します。

対象経費 建物取得費・建物改修費・設備導入費など

補助率 4分の1以内（上限額500万円）

（問い合わせ先）企業立地推進課 ☎ 087-832-3354

●テレワーク拡大による県内転入支援事業

県内でテレワークができるサテライトオフィスを開設する県外事業者に対し、改修などに要する費用を補助します。

対象 県外に本社などを有する法人・個人事業主（県内に支店などを有する場合を含む）

条件 サテライトオフィスを開設し、3年以上継続する計画があること

対象経費 オフィス改修費・賃貸料、備品等購入費・リース料、従業員の転居費用など

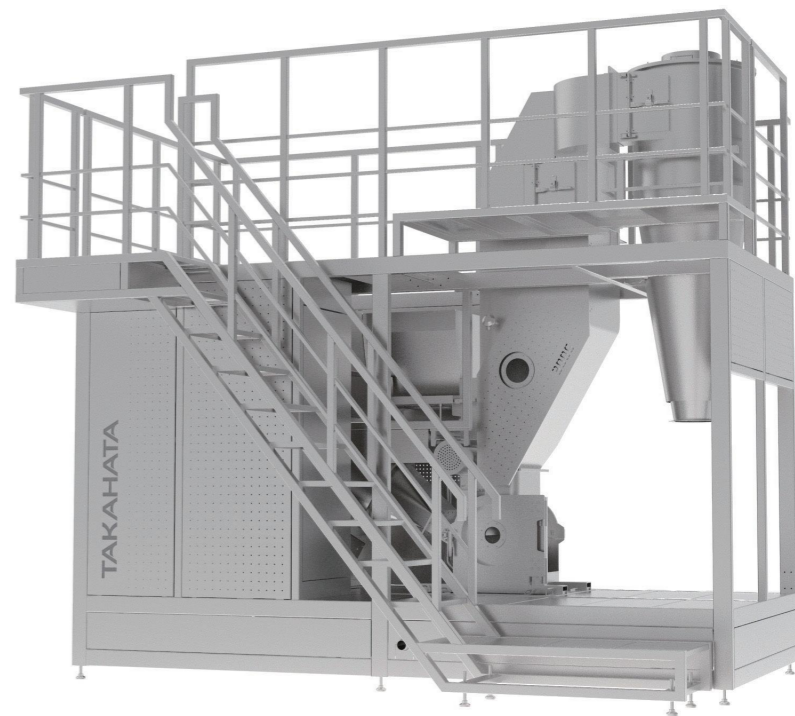
補助率 3分の2以内（上限額200万円）

（問い合わせ先）労働政策課 ☎ 087-832-3365

詳しくは、4月以降に県ホームページに掲載する募集要項などでご確認ください。



代表取締役の高畑洋輔さん



「食品ロスへの取り組みを私たちは『MOTTO AINAI エンジニアリング』と呼んでいます」と高畑さん。「食品ロスをそもそもつくらない、つくってしまったも活用する、そんな技術の確立がテーマです。ただし、機械だけあっても意味がない。出口戦略があつてこそその提案力です。提案力を高める中核機能として、食品ラボを立ち上げました。夢は大きく、当社の技術や製品を『ジャパ

技術革命も夢ではない 視野は大きく世界へ

「社内では『社長が乾燥機を買って行って会社を買ってきた』と驚かれましたが、この乾燥技術は薬物などの野菜を粉末にしたり、原料を食品とすることもできます。輸送コスト削減につながり、海外に販路も広がるでしょう。乾燥事業は大いに期待できる分野です」。ここから「食品ロス問題を解決する」という同社のテーマが浮かんでいきます。

「父の代まではいわゆる板金業だったんですが、動く機械が造りたかったんです」と振り返る、代表取締役の高畑洋輔さん。3代目社長に就任して以降、同社のビジネスは大きく変わりました。機械、電気、ソフトなどの設計ができる人材を集めて、ODM（委託先のブランドで製品を設計・生産する）を通じてノウハウを蓄積。外注に頼らず、機械装置の製造・組立・配線・据え付けをワンストップで行えるものづくり体制を確立しました。

「そして、食品機械に注目したのは、業界として安定感があり、何より楽

た社員が、今は200人近くまで増えました。「ノウハウを持つベテランとそれを学ぶ若手の交流から新しいものが生まれていて、とても面白い。ヒューマンエラーを減らすため、自動化は進めつつも、人の持つセンスは今後も大切にしていきたいですね」と語ってくれました。

問い合わせ先
（公財）かがわ産業支援財団 取引支援課
☎087-868-9904

「この技術が確立すれば、世界の食糧難問題などにもアプローチできるはず」と力を込めます。また、大学と連携し、本社周辺に農地を確保して土壌から食材としての農産物を変えていくためのAGR事業（農業に関連する幅広い事業）も開始予定。地域コミュニティと手を取り合い、自社の枠を越えたネットワークを築く取り組みで、高松市から「地域グッドサポート企業」の表彰も受けました。

「二番の自慢は従業員なんです」という高畑さん。入社時は14人だった社員が、今は200人近くまで増えました。「ノウハウを持つベテランとそれを学ぶ若手の交流から新しいものが生まれていて、とても面白い。ヒューマンエラーを減らすため、自動化は進めつつも、人の持つセンスは今後も大切にしていきたいですね」と語ってくれました。

「もったいない」を生かす マルチファクトリー

挑戦する かがわ 36 ものづくり企業

機械装置の製造から始まった、食品ロス削減への取り組み。「夢は大きく」を掲げ、ダイナミックな視野で常識にとらわれない挑戦を続けるものづくり企業を紹介します。

株式会社タカハタ

（住所）高松市三谷町3234-10
（創業）1967年
☎087-888-5852
<http://www.takahata.cc/>

